

第12回例会 2021.12.15 (水)

■出席率 会員70名中48名出席68.57% 修正54名 77.14%
メイクアップ6名

◆会長挨拶 一條 浩孝 会長

先週の火・水・木と私の会社に税務調査が入りました。創業して30年経ちますが、今回で3回目ですので税務調査の頻度としては割と少ない方だと思います。先週の例会の時にこのことを吉田和義さんにお話したところ、吉田さんは「自分は税務調査が大好き。半日世間話に付き合わせている」というお話をお聞きしました。なるほど、自らも楽しみ、調査の時間も削れるという一石二鳥のやり方だなと感心致しました。早速私もそんな吉田さんからの貴重な入れ知恵を参考にさせていただき、最終日の木曜日に実行致しました。ひとしきり世間話をした後、せっかくなので常々疑問に思っていたロータリーの話もさせてもらいました。それはロータリーにかかる費用がなぜ交際費なのか、ということです。国税庁の指針でそう決められているということですが、聞くところによりますと人によっては経費とさえ見てもらえないケースもあるようです。



交際費とは付き合いに使った費用のことを言います。必要な経費とは認められているものの、個人的な遊興費と区別がつきにくい性格のものであることから認められる上限額も決められています。ロータリーとはただのお付き合いクラブなのでしょうか？ここがどうも私には腑に落ちないことだったのです。



私は主張しました。ロータリーには「事業を育む」という唯一の目的を掲げており、そのために奉仕の理念を学ぶことを日々している。ただ集まって昼飯を食べているわけでは無い。社業発展のために学んでいるのだから交際費では無いのではないかと、といった具合に私のいつもの調子で延々と説明させてもらいました。もちろん、これを聞いた調査官が国税庁の判断を覆すような言葉を発することはありませんでしたが、それでも吉田さんのように半日とまではいかないまでも、たつぷりと時間を消費することに成功いたしました。結果、大きな問題も無く税務調査は終了し、ほっとしているところです。吉田さん、ありがとうございました。

ただ言えることは世間一般ではロータリーの活動は「交際」として見ているということです。残念でなりません。このままでは人付き合いを好まない傾向にある、これからの若い人たちが入会する際の障害にもなりかねないと思っています。親睦はとても大事ですが、やはり「学び、実践する」これが先に来るロータリークラブであってほしいと願っています。

前回の例会の最後に「入りて学び、出でて奉仕せよ」と言えば高橋和之さんを思い出します、とお話をさせていただきました。当時入会したての私が今になっても覚えているということは、高橋和之さんが一年をかけて言い続けてきたからだろうと思っています。私もそれを見習いたいと思います。一年をかけて「奉仕の理念を学び実践しましょう」と訴えていきたいと思っています。その時は皆さん「ああ、また始まった」と思いながら聞いてください。何年か経って一條は奉仕の理念ってうるさかったな、と思い出していただければ私はそれで本望です。

今日の例会は3名の会員スピーチがございます。鈴木洋子会員によります「私の夢」、齋藤弘之会員によります「我が家のコミュニケーション」、木村昇会員によります「専門業者としての責任」となっています。米山奨学生のウ・シュウレイさんはカウンセラーである鈴木洋子さんのスピーチを是非聞きたいということで奨学金授与の日程を今日に変更させていただきました。3名の皆さん、今日はよろしく願いいたします。

◆米山奨学金授与

一條会長から米山奨学生ウ・シュウレイさんに奨学金が授与されました。

ウ・シュウレイさんからは、現在、就職活動を行っているとのこと。インターンシップに参加し社員の方とコミュニケーションをとりながら、働くことの楽しさや、大変さを少しずつ感じているとの話がありとのお話がありました。これからも就職活動頑張ってください。



◆会員スピーチ1 鈴木洋子会員 「私の夢」

職業奉仕委員会の恵利会員より会員スピーチの依頼がありました。「えー私ですか？」と、お答えしたもののいつかは順番が来るだろうと思っていました。

本日は、このように皆様の前で自分を振り返る機会を頂きありがとうございます。会員スピーチのテーマは「私の夢」としました。小学生の作文の題のようですが、いくつになっても夢を見ることが出来る自分でありたいとの願いをこめてお話ししたいと思います。

初めに結論を言います。私の夢は、「人としていつも夢見る夢子さんでありたいです。巡り合えたご縁を大切に、明るく元気でいつも笑顔で周りの人が穏やかな気持ちになれるように支えたいです。」基本は母からの「女の子はいつも笑顔でいると可愛いんだよ」と、言われ続けたことです。いつか母のようになりたいと願う、私の中で母の存在は大きいです。苦難に会う度にこんな時母は何と言っただろう」と、自分を冷静に振り返ることが出来ます。誰もがそうであるように親からの教えはいくつになっても生き方の指標になるようです。



私は今、認知症介護に関わり、様々な生き方をされた人々と一緒に生活しています。そこで教えていただくのが人生の先輩の生き方です。先輩の生き方から自分なりに勉強したことは、環境が人の生き方を変えるということ、先輩の今ある姿は本人の生き方の集大成であるということ。つまり、すべて自己責任のなせる業かな？と、個性ある先輩の介護に関わっています。介護の仕事は、多くの先輩の生き方を学べる場であると思います。

私は、ロータリークラブ入会の面接時に「職業分類は？何としますか？」と、問われ、すぐに「認知症ケア」と答えました。まだロータリーの何も理解できていない自分がそう答えたのです。

震災を体験し利用者様と一緒に避難し環境の変化で混乱する利用者様を見て、「この人たちの命を守らなければならない」と、思いました。着の身着のままの避難生活で精いっぱいでした。そんな時、福島県グループホーム協議会会長から連絡があり「認知症の人々を守らなければならない、福島県認知症ケア専門士会を立ち上げ連携する組織を立ち上げたい」との相談を受け認知症ケア専門士資格を有する人々が集い、平成24年、会の立ち上げを行うことになりました。会長から呼ばれ参加した私は初代会長に選任され日本認知症ケア学会にケア専門士会の発足許可申請をし、平成24年8月に福島県認知症ケア専門士会の承認を頂きました。事務局として総会や研修会の準備をしながら県内各地で実地しました。今、思えば認知症高齢者を守りたい一心と周りの協力者のおかげで120名(平成25年総会時)いた会員の県支部会長を5年間勤めることができました。これが出来たのは、平成15年福島県認知症グループホーム協議会の立ち上げに浜北地区の理事として関わり会長や他の理事の皆様より多くを勉強させていただいたことと、病院勤務中に私を婦長として人間として温かく時に厳しく育ててくれた総婦長のおかげと感謝しています。

そこで学んだのが、組織力と継続する力でした。

震災と原発事故の残したものは、家族崩壊による認知症高齢者の増大と考えます。若い人と子供は県外に避難し残された高齢者は避難先を変えながら仮設住宅で暮らしました。故郷に戻れない寂しさと家族との別離は大きなストレスとなり、酒を飲んで暴れる人、引きこもりから鬱になる人など社会問題となりました。特に震災後に配偶者と死別した人は急激に認知症状を発症しました。研修会などにより県内の多くの事例を見聞きし、そのような体験から私の出来ることは、認知症の人の気持ちに寄り添い、その人らしく生きて欲しいと願うことでした。認知症ケアは私の仕事、見守りがあることで認知症の症状は増悪しない、私なりの仕事に対する誇りです。私は職員に「のんびり、ゆったり、その人らしく」接してほしい。そしてケアに迷ったら「自分の家族だったらどうしてほしいと思う」と、問いかけました。職員も世代や生育環境により考え方は様々ですが、「家族だったら…どうする？」と、話し合うと介護観は統一されます。

認知症は誰もがいつなるかわからない身近な病気です。2025年65歳以上の5人に一

人が認知症になるといわれています。認知症の人は何もわからないわけではありません、自分が物忘れをすることを自覚し将来の自分の姿を不安に思い悩み苦しみます。症状は改善することなく悪化するのみです。元々は社会的に貢献した素晴らしい人でも病気には勝てず人格まで失います。私は、認知症の人と生活をともにし「この人は今、幸せなのかな？」と考えてしまいます。私と言葉ではなくその場の雰囲気であわ—とした温かい空気の流れを感じます。お互いに笑顔で「大丈夫だよ」と言っているようです。私は、今の仕事を天職と考えています。誰かの役に立てることは生きている喜びであり、生きている証であると思います。だから職業分類は？と、問われたときに「認知症ケア」と、答えたのかと思います。

最期に一言。認知症になっても穏やかに生活するために、認知症になると前頭葉の脳の萎縮により感情のコントロールが出来なくなり、今までの生き方がそのまま態度に出ます。そこでお願いします。今日から、今まで以上に人にやさしく接してください、人をほめてあげてください、人を愛してください、感受性を高めてください、自分の最も身近な人から実行してください。

私は、あなたの名前を忘れても、五感で生活しています、あなたのしぐさや表情で優しいあなたを思い出すことが出来ます。どうぞ、話しかけて下さい。

ご清聴 ありがとうございました。

◆会員スピーチ2 齋藤弘之会員 「我が家のコミュニケーション」

「スピーチ」という言葉を辞書で調べると、会合の席などで大勢を前にして話す話。談話。とあります。「会話」という言葉を辞書で調べると、二人以上の人が集まって互いに話をかわすこと。とあります。

そうか。だから私にとって、会話はできても、大勢を前にするスピーチはハードルが高く、私にはうまくできないことなんだと思いました。

でもどうすれば上手にできるのだろうと、インターネットで「スピーチをうまく見せる方法」を検索してみました。すると、ほんとうにたくさんの『スピーチのコツ』がありました。そんなたくさんのコツを見て私なりに思ったこと。それは、スピーチをうまく見せるには、「登壇



前」で全てが決まってしまうのではないかということでした。

スピーチ内容の事前準備もそうですが、当日の会場で名前を呼ばれて席から立ってこの演台に向かって行くその姿を見れば、その人がこれから話す内容が面白いのかどうか、わかってしまうのではないのでしょうか。そう思うと確かに、今まで面白かったり、ためになった講演は、最初のその方の登場シーンで、すべてが決まっているような気がします。

その人は、登壇するまでの短い間で会場の雰囲気を感じ取ります。そうして自分自身を会場に慣らすことで、緊張のコントロールができます。

リラックスできているので視野が広くなり、聞いている人のリアクションにも反応して、アドリブもできる。という具合に「必然的に面白い話」になるのだと思います。

ちなみに、私が入会してからの 4 名の歴代会長は皆さんがそういう能力をもった方々だと思います。特に吉田さんに関しては、入会時の会長であり、一番長くお付き合いをさせていただいているので、吉田さんがただマイクを持っただけで、笑わせようとしている事が分かってしまうほどすごいオーラを持っていると思います。

是非、皆さん今後「登壇シーン」に趣をおいていただき、逆に見る方はそこに注意してみてくださいと面白いかと思います。余談でしたが、

こういうコミュニケーションは、時代とともに変化し、進化しています。

これより参考にはならないかもしれませんが、今回のスピーチのテーマ「我が家のコミュニケーション」についてお話させていただきます。

唐突ですが、私の最近の楽しみは、『お笑い』を見ることです。

流行りの若手芸人も好きですが。私は今、落語や、講談、漫才、これはお笑いではないですが、“歌舞伎”とかを見るのが楽しみです。

NHK や教育で土日の朝や、午後の時間帯にテレビでやっているのを見ています。演目や、名人のお名前などはまだ勉強不足でよくわかりませんが、そもそも昔々から受け継がれている話なのに今にも通じていて、さらに同じように面白く感じるということが、すごいことで感心しています。そして、そんな 45 歳の自分がなんとなく「粋」じゃないかと思ったりしています。

私の家族は、5 人です。妻と、高校 2 年の長男、中三の長女、中一の次男の、5 人家族です。私の小さい頃、テレビにはチャンネル争いという「戦い」がありました。夕方のアニメは相撲との「戦い」、夜のドラマは、ナイター中継との「戦い」、火曜日の夜に至っては演歌の歌謡ショーと「戦い」など、親とのテレビ争奪戦がありました。もちろん親の言うことは絶対で、チャンネル争いには勝ったことはありませんでした。

そんな昭和の悔しい幼少時代を経験したので、親になった今、子供に負けてたまるかと意気込んでいましたが。我が家ではそんな昭和のようなテレビのチャンネル争い自体が存在しません。

“私は日々テレビ見放題です。”

今うち子供たちはスマホや、タブレット、ゲーム機の任天堂スイッチの画面を各自それぞれ見えています。皆さんのご家庭はどうでしょうか？

我が家は狭いということもありますが、私の希望で、テレビのあるリビングで家族全員過ごすようにしています。少しでも家族団らんを装いたく、また子供たちには目の届くところでスマホや、タブレット、ゲームをさせるようにしています。

そんな同じ場所においてもバラバラに過ごしている中、高2の長男が『18歳と81歳の違いって面白いよね！』と仰いました。
「私はそれユーチューブで見た！あれは面白かった！」と長女が言い。
「俺はインスタにもあったのを見た！ホント笑ったよ！」と次男が言い。
「私もフェイスブックで誰かがのせたのをみたわ！」と妻。
『おいおい皆さん何の話ですか？？？』と、一人取り残された私・・・。
『18歳と81歳の違い！』ってなんの話なんだ？なんだっけな？？
でもどこかで聞いたことがあるような気がしました。

ーちなみに皆さんご存じですか？知っていたらネタバレになるのでしばらく言わないでください。ー

私は思い出しました。それは私の大好きな日曜夕方の『笑点』の大喜利コーナーでやっていたお題でした。

「あれね！」と、家族みんなで笑い話ことができました。

今回まさかそんな中高年向けの大喜利で、しかも渋いお題のお笑いを家族みんなが知っていることにびっくりしました。

同じ場所においても、それぞれがそれぞれに好きなものを見ている時代。年齢も違うし、価値観も違いますが

『18歳と、81歳の違い』というワードで、共感し内容の面白さまで、家族全員で共有ができました。

私たちのロータリークラブも、入会されている方の年齢はバラバラですし、入会した時期も、長さも違います。

活動内容も大事ですが、この同じ場所で一緒に共感して一緒に楽しめれば年齢や時代、経験にかかわらず「最高にうれしい事」だと思います。

そんなクラブになるには一人一人の積極性、何かしてみよう、話してみようという前向きな気持ちと、コミュニケーションの仕方が大切なのではないでしょうか？

皆さんと同じ目線で、共感して行きたいという私の希望です。

ということで、10分になるまでまだ時間がありますので

話に出せていただいた『18歳と、81歳の違い』というネタを時間まで発表させていただきます。

ぜひ皆さんご自身で想像しながらお聞きください。

- 1 恋に溺れるのが18歳、風呂で溺れるのが81歳。
- 2 恋に落ちるのが18歳、ベッドから落ちるのが81歳。
- 3 恋で胸を詰まらせるのが18歳、餅でのどを詰まらせるのが81歳。
- 4 道路を暴走するのが18歳、道路を逆走するのが81歳。
- 5 検問に引っかかるのが18歳、オレオレ詐欺に引っかかるのが81歳。
- 6 心がもろいのが18歳、骨がもろいのが81歳。
- 7 偏差値が気になるのが18歳、血圧・血糖値が気になるのが81歳。
- 8 受験戦争を戦っているのが18歳、アメリカと戦ったのが81歳。
- 9 まだ何も知らないのが18歳、もう何も覚えていないのが81歳。
- 10 親の支えがいるのが18歳、杖の支えがいるのが81歳。
- 11 自分探しの旅をしているのが18歳、自分の帰る場所を探しているのが81歳。
- 12 奨学金を返納するのが18歳、運転免許を返納するのが81歳。
- 13 投票できるのが18歳、途方に暮れるのが81歳。
- 14 ドキドキが止まらないのが18歳で、動悸が止まらないのが81歳。
- 15 朝早く起きて「行ってくる」という18歳、朝早く起きて「生きている」という81歳。
- 16 知らないことが多いのが18歳、忘れたことが多いのが81歳。
- 17 18歳はインスタバエ、81歳は「それはどんなハエ？」。
- 18 夢と希望探しが18歳、医者探しと病名探しが81歳。
- 19 東京オリンピックに出たい18歳、東京オリンピックまで生きたい81歳。
- 20 東京オリンピックといえば18歳は2020年、81歳は1964年。
- 21 「嵐」というと松本潤を思い出すのが18歳、嵐寛寿郎を思い出すのが81歳。
- 22 「やばい」といえば、18歳は「すごい」、81歳の「やばい」は「きけん・あぶない」。
- 23 早く「二十歳」になりたい18歳、「二十歳」に戻りたい81歳。
- 24 友達が増えるのが18歳、友達が減るのが81歳。
- 25 社会に旅立つのが18歳、あの世に旅立つのが81歳。
- 26 あの人はどこの大学？というのが18歳、あの人はどこの施設？というのが81歳。
- 27 手入れして虫歯ゼロが18歳、入歯して虫歯ゼロが81歳。以上

◆会員スピーチ 3 木村昇会員 「専門業者としての責任」

皆様、こんにちは。入会3年目の木村昇でございます。

この福島南ロータリークラブに入会した当初は、右も、左もではなく、前も見えない状況が続き、新会員スピーチの際に「分からないことが分りません。」と答えました。さすがに、これを皆様の前で2回目を話したところ、例会終了後に私のカウンセラーだった廣澤さんから「それではダメだ、何でも聞きなさい。その為に、私がいるのだろう。」と叱られました。その言葉に少し血の気が引いたのか、今まで真っ暗だった私の視界が開けたような気がしました。その後は程よい緊張感をもって例会に参加できるようになり、ロータリークラブについて興味をもてるようになりました。今日は皆様の貴重なお時間を拝借し、職業奉仕委員会の奉仕の理念について、スピーチをさせていただける事を感謝いたします。

新会員スピーチでもお話したような気がしますが、改めて不二サッシに入社する事になった経緯や、会社の概要についてお話させていただきます。

平成2年に大学を中退し青森でぶらぶらしていたところ、実家の床屋に来ていたお客様から「うちの仙台で求人あるよ」との一言により、仙台に行き中途採用の面接を受けました。当時はバブルの後期で建築業界には仕事があふれ、それをこなす人材が顕著に不足していました。弊社もそれにたがわず先ずは人材確保が優先だったようで、中途採用の試験の内容はごく簡単な筆記と適応検査、面接だけでした。驚いたことに面接では「野球できるか？」と質問され、中学、高校とバスケットボールしかしていない私ですが「野球できます。」と回答、後日採用の通知をもらい不二サッシ(株)の社員となりました。いわゆるバブルの申し子の一員です。当然野球部にも入部する事になりましたが、ここでもう一度驚いたことに、野球部で渡されたユニフォームの背番号がなんと1番だったのです。エースが居ないなんて、どれだけ人材不足だったのでしょうか。

このような話をすると「不二サッシってどんな会社だ？」という方もいらっしゃると思いますが、弊社は昭和33年に日本で始めてアルミサッシを製造、販売した業界のパイオニアであり、昨年で創業90周年を迎える老舗企業です。創業者である佐野友二という人は、



アルミサッシの製造について特許を一切取らず、業界の発展を一番に考えた親分的な存在だったようです。その思惑通りにアルミサッシ業界は発展し後発メーカーの勢いが増し、いまでは業界4番手となっているのが現状です。これも創業者である佐野友二の「奉仕の理念」ではないかと思えます。

弊社の仕事は建設業の中の建具工事業になります。ここにも多数いらっしゃいます事業主や個人のお客様、又は行政が、建物を建てたいと思うことから弊社の仕事が生れます。その要望に対して設計事務所様が想像の世界から、目に見える設計図や模型を作り出し、それを基に施工業者様が実際の建物を建築するという大きな流れとなります。今回は非常にシンプルに話しておりますが、建物を完成させるまでの手順を語るには時間が足りませんので、専門家の皆様にはご容赦頂きたいと思えます。建物を作るにあたっては100を越えるいろいろな専門工事業が携わっており、私の会社はその数あるなかの1社で、ガラスを入れるためのアルミサッシを作り、取り付ける会社です。そのアルミサッシを製作、取り付けるには守らなくてはならない基準、法律が多々あり、その中でも重要なことは耐風圧強度です。いわゆる風に耐える為のアルミの強さです。そちらにいらっしゃる松山会員が取扱うガラスと共にアルミサッシは建物の見た目に大きな印象をもたらします。お施主様、設計事務所様のイメージをくみ取り、魅力ある建物にすること、そして品質の良い、安全な製品を納めることが弊社の役割です。ガラスを大きくすると風が多くあたるので、支えるアルミのフレームも大きく、太くしなくてはなりません。アルミのフレームを細くかっこよくすると弱くなるのでガラス面を小さくしなくてはなりません。建物の印象を左右するアルミサッシの選択には、知識と経験、発想力、そして学習する向上心を持った専門業者の提案力が必要と考えます。いろいろな要望や条件を踏まえ、皆様の満足いく落とし所を見つける事は専門業者としての責任だと思えます。スピーチの枠が10分ありますので、ここまで長々と話しましたが、一條会長がいつも仰っている「仕事をする上で大切にしている事」を簡単に言葉にまとめると、「自分の会社だけが得をするのではなく、携わっている皆様が満足し納得した建物を作る。そのためのパートナー的な存在、そのような専門業者になりたい。」と思っております。

皆様、ご清聴ありがとうございました。

◆次年度役員の方針表明（敬称略 前回の続きです。）

副会長 黒羽 好夫

このたび、次年度役員副会長を拝命いたしました黒羽です。

よろしく申し上げます。

次年度 渡邊会長の方針の下、奉仕の理想の実現とクラブ運営に尽力をいたします。

皆様のご協力をお願いいたします。

◆次年度理事の決意表明（敬称略 前回の続きです。）

河野 忠

次年度は入会4年目になります。少しでも皆さんの役に立てるように頑張りますので、宜しくお願いいたします。

廣澤 俊樹

次年度理事を仰せつかりました廣澤です。本クラブの管理主体は理事会であり、クラブのあらゆる事項に関する理事会の決定は最終的なものであって、クラブに対して提訴する以外には、決定を覆す余地はありません。ですから理事は善良な管理者の最善の注意を持って、委任事務を処理しなければなりません。

次年度は、これらの理念を持って、クラブ運営が支障を来すことなく、また滞りなく進行するように努力を致します。改めまして一條年度、福島南ロータリークラブの会員としてロータリー活動を率先垂範して参りますので、一年間宜しくお願い致します。

高橋 勇雄

次年度、理事に選出された高橋です。

約2年余り、コロナに阻まれ、更にまた、オミクロンと言う得体のしれない新型に戸惑う現在、次年度もどう舵取りをするのかが問われる年度になろうかと思われま。理事としてコロナ有りきを前提に、渡辺会長、宍戸幹事のもと、誠心誠意、取り組んでまいる所存です、宜しくお願い致します。

吉田 和義

この度、渡邊正義会長年度の理事を拝命致しました吉田和義です。今年度の会場監督の役割をやっと終われると楽しみにしていましたが、渡邊会長エレクトから頼むよと一言あり、何のことかと深く考えていませんでしたが、11月の理事会で名簿を見ると理事に名前が記載されていました。一條年度の「奉仕の理念を学び実践しよう」という会長スローガンからすると、まだまだ学びと実践が足りないと自覚しておりましたが、次年度もクラブに奉仕しなさいという渡邊会長エレクトの御意向を受け入れて、精一杯努力していきたいと考えていますのでご協力宜しくお願い致します。

木村 昇

次年度、理事を仰せつかりました木村でございます。

次年度の理事の仕事をする前に転勤にならないよう、社業に努めます。

よろしくお願い致します。

菊地 和宏

この度、理事に推薦された菊地和宏でございます。

渡辺正義会長エレクトの元、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の五大奉仕を念頭に、皆さんと共に RC 活動を楽しんで参りたいと思います。次年度も宜しくお願い申し上げます。

小坂 和也

次年度理事を仰せつかりました小坂です。

コロナ禍の影響で皆様のご協力をどれだけ得られるか分かりませんが社会環境の変化にも対応し、地域社会に貢献し、心のこもった奉仕活動を実践してまいりたいと考えております。

それには、大勢の参加が必要ですので、万障繰り合わせの上、皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

安齋 常克

2022・2023 年理事に承認を賜りました安齋常克です。理事として福島南 RC の運営が、恙無く進みますように努めさせていただきますので、ご指導宜しくお願いいたします。

伊藤 弘子

次年度 理事を仰せつかりました 伊藤弘子です

この先、コロナは消滅することはないと思いますのでこれからはwith コロナで例会の在り方や行事の企画など会長、幹事と心を合わせて活動していきたいと思っております。会員の皆様にとって楽しみな例会になるよう、また企画された行事は多くの会員の皆様に参加頂ける様に、活動致しますので一年間、どうぞご協力を宜しくお願い致します。

笠 雅樹

次年度理事の笠雅樹です。よろしくお願い申し上げます

国際プロジェクトを当クラブで提唱していき ニーズ調査を実施していきます。日本の人口減少 雇用人口減少いろいろな問題を感じます。日本だけではなく 海外にも目を向け国際貢献を考えていきたいと思ひます。皆様に頂いた寄付を 明確に活動資金に振り分けたいと考えています。よろしくお願いいたひます。

◆次回例会 第13回 2021.12.22

・ゲストスピーチ 「元気が出る話 あなたの心次第」

東北の綾小路きみまろ 渡辺 勇氏